

講義コード	4A006011
講義名	アロマセラピー
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	金曜日
代表時限	3時限
科目分類・分野名	総合領域
科目ナンバリング	A4-2703
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・4年
必修/選択	選択

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 百合 邦子	指定なし

#### 担当教員

百合邦子

#### 講義の目的

自己の心身ケアのみならず、昨今では統合医療としてメディカル面での活用がなされているアロマセラピーの基礎知識を習得する。

#### 到達目標

各項目の基礎知識を学修することにより、(社)日本アロマ環境協会検定1級合格可能レベルの知識習得を目標とする。

#### 授業計画表

#### 授業計画

- 1.アロマセラピーの楽しみ方
- 2.アロマセラピーのしくみ
- 3.エッセンシャルオイルの基礎知識
- 4.精油①
- 5.精油②
- 6.精油③
- 7.アロマセラピーの基材
- 8.アロマセラピーの歴史①
- 9.アロマセラピーの歴史②
- 10.アロマセラピーの歴史③
- 11.アロマセラピーと健康的なライフスタイル
- 12.アロマセラピーに関する法律
- 13.アロマセラピーと環境
- 14.まとめ①
- 15.まとめ②

#### 成績の評価

期末試験 80%, 平常点 20%

## 自己学習

精油は楽しくかつ安易に使用できるものだが、人体への影響を鑑み、安全に使用できるよう学修内容をまとめておくこと。

## 履修上の注意

精油は濃度が高いため、近距離での吸入や手指への現役付着がおこらないよう取り扱いに注意する。

教員の指導に注意をはらい、気になることはすぐに報告すること。

## テキスト

特になし。

## 参考文献

『アロマセラピー検定テキスト 1級』 (社) 日本アロマ環境協会 鳥居鎮夫 監修

『アロマセラピー検定テキスト 2級』 (社) 日本アロマ環境協会 鳥居鎮夫 監修

## オフィスアワー

未定。

## 研究室

診療・研究棟3階教員室

## 授業用E-mail

[yuri@kansai.ac.jp](mailto:yuri@kansai.ac.jp)

講義コード	4A007011
講義名	インターンシップ実習
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	
代表時限	
科目分類・分野名	総合領域
科目ナンバリング	A4-2617
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・4年
必修/選択	選択

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 坂口 俊二	指定なし

#### 担当教員

王財源、中吉隆之、鍋田理恵、山崎寿也、北川洋志

#### 講義の目的

本実習は、「鍼灸治療所実習Ⅰ・Ⅱ」とともに、学内で学修した知識と技術を実際の臨床の場で再確認するための重要な科目である。実際の臨床では、教科書で学んだとおりの病態を示す患者が少ないこと、また同じ病名であっても患者の訴えは多岐にわたっていることなどを体験するとともに、現場ではどのように対応しているかを学ぶ。

#### 到達目標

1. 施設指導者の指示に従って適切に行動ができる。
2. 患者とうまくコミュニケーションをとることができる（問診を含む）。
3. 施設指導者の方針に従って治療を補助できる。

#### 授業計画表

#### 授業計画

予め本実習のための必要な事項（接遇、患者情報保護など）についてガイダンスを行った後、本学科が認定した実習施設に1-2名で1週間の臨地実習を行う。具体的な実習内容としては、治療準備、患者案内、問診、治療補助、治療終了後の片付けなどである。

#### 成績の評価

実習施設指導者による総合評価80%と担当教員によるデイリーレポートの内容評価20%とする。

#### 自己学習

その日に学んだことをデイリーレポートに記載し、反省点を翌日に活かすことを心掛ける。

#### 履修上の注意

3年次の「鍼灸診察法Ⅰ・Ⅱ」、4年前期の「鍼灸治療所実習Ⅰ」で学修した内容を再度確認して実習に臨むこと。

#### テキスト

特になし。

## 参考文献

「鍼灸診察法Ⅰ・Ⅱ」で配布した資料（医療面接、身体診察、東洋医学的診察法など）

## オフィスアワー

水曜日の昼休み（坂口）。

その他の教員のオフィスアワーやメールアドレスなどは別途、一覧表を参考にすること。

## 研究室

診療・研究棟4階412研究室（坂口）

## 授業用E-mail

[sakaguti@kansai.ac.jp](mailto:sakaguti@kansai.ac.jp)

講義コード	4A028011
講義名	トレーナー総合実習
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	月曜日
代表時限	3時限
科目分類・分野名	総合領域
科目ナンバリング	A4-2710
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・4年
必修/選択	選択

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 内田 靖之	指定なし

#### 担当教員

増田 研一  
吉田 隆紀  
山口 由美子  
中尾 哲也  
寺岡 祐助  
内田 靖之

#### 講義の目的

スポーツ現場におけるアスレティックトレーナーに必要な技術・能力習得を目的とする総合的な実習を行う。

#### 到達目標

スポーツ現場における知識／技術などに応用を利かせ、身につける。

#### 授業計画表

#### 授業計画

1. アスレティックトレーナーとしての行動  
これまで学んできた「アスレティックトレーナー像」を社会的にも技術的にも追求していく。
2. 機能解剖学の理解から運動指導への応用  
機能解剖学的な思考方法は、動作観察や競技の理解を助ける。傷害機序の理解から効率的な運動構築まで、機能解剖学の知識を実践応用していくことを目的とする。
3. 外傷／障害に対する理解と処置  
アスレティックトレーナーは外傷／傷害の予防を目的とする。最終目標である「予防」するために必要な傷害像の理解から、発生してしまった場合の処置方法まで、幅広く対応していく。
4. 内科疾患や環境への対応  
整形外科的疾患だけでなく、内科的疾患への対応もアスレティックトレーナーの役割となる。この項目では、競技者に特徴的な内科疾患だけでなく幅広い知識と、その対処の実践を行う。
5. 対象者への検査／測定と評価  
競技者の現状把握、目標値の設定には検査測定と評価が必須である。現場に即した測定項目のリストアップから、数値の解釈まで現場での実践を最優先に実習していく。

## 6. コンディショニング

競技特性を踏まえて、競技者が安全且つ段階的に、競技を楽しめるようコンディショニングサポートを行っていく。

## 7. アスレティックリハビリテーションの立案と実施

外傷・障害を負った競技者に対して、安全且つ早期に復帰できるよう、予防目的のトレーニングを組み合わせたアスレティックリハビリテーションの実施を行う。

## 8. 救急処置

ファーストエイダーとしてのアスレティックトレーナーに救急処置の知識と技術は不可欠であるため、実践能力を養う。

## 9. トレーニングスケジュールと栄養指導、サプリメントの理解

試合までのピリオダイゼーションなどコンディショニングと重なる部分で選手をサポートし、必要であれば栄養指導、安全なサプリメントの理解など他分野に渡って知識をつけていく。

## 10. 地域スポーツ振興への企画立案と実施

スポーツはプロだけでのものでなく、老若男女が等しく行えるレクリエーションの部分をも担っている。地域と提携し、大学ならではの貢献が図れるよう実習を進めていく。

これら上記目的や狙いを基に実習を行っていく。

## 成績の評価

出席／デイリーレポート／授業態度／自己評価により判定する。

## 自己学習

これまでに学習してきた全てをもって実習に臨んでください。

## 履修上の注意

遅刻／欠席は原則として認めない。学外での実習を含みます。

## テキスト

日本体育協会公認スポーツ指導者養成テキスト・共通科目Ⅰ～Ⅲ

公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト1～9

## 参考文献

適宜、指示する。

## 研究室

吉田 隆紀（診療研究棟3階305研究室）

山口 由美子（診療研究棟4階415研究室）

中尾 哲也（診療研究棟4階412研究室）

寺岡 祐助（診療研究棟3階教員室）

内田 靖之（診療研究棟3階311研究室）

講義コード	4A075011
講義名	課題研究
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	通年
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	金曜日
代表時限	5 時限
科目分類・分野名	総合領域
科目ナンバリング	A4-5004
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・4年
必修/選択	選択

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 坂口 俊二	指定なし

#### 担当教員

王財源、吉備登、近藤哲哉、山本博司、伊藤俊治、木村研一、谷万喜子、戸村多郎

#### 講義の目的

本科目では、研究課題を遂行するための基礎を学び、大学院での研究などに繋げることを目的とする。

#### 到達目標

研究課題を遂行し、その成果をレポートや学会発表、論文作成に繋げる。

#### 授業計画表

#### 授業計画

以下の分野に配置した教員より提示された課題から1つを選択し、それに沿って研究の基礎を学ぶ。

指導教員：坂口俊二	領域：鍼灸臨床学
指導教員：王財源	領域：中国伝統医学（鍼灸学）・中医哲学・鍼灸美容学
指導教員：吉備登	領域：鍼灸基礎学
指導教員：近藤哲哉	領域：食品栄養学
指導教員：山本博司	領域：鍼灸臨床学
指導教員：伊藤俊治	領域：分子病理学・分子生物学
指導教員：木村研一	領域：鍼灸基礎学
指導教員：戸村多郎	領域：鍼灸臨床学
指導教員：谷万喜子	領域：鍼灸臨床学

#### 成績の評価

担当教員より説明がある。

#### 自己学習

担当教員より指示がある。

#### 履修上の注意

各教員の研究課題等の詳細は、前年度中に説明済みである。

## テキスト

担当教員より指示がある。

## 参考文献

担当教員より指示がある。

## オフィスアワー

水曜日昼休み

その他の教員のオフィスアワーやメールアドレスなどは別途、一覧表を参考にすること。

## 研究室

診療・研究棟4階412研究室

## 授業用E-mail

[sakaguti@kansai.ac.jp](mailto:sakaguti@kansai.ac.jp)

講義コード	4A244011
講義名	総合演習Ⅱ
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	通年
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	金曜日
代表時限	1時限
科目分類・分野名	総合領域
科目ナンバリング	A4-5003
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・4年
必修/選択	必修

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 山崎 寿也	指定なし

#### 担当教員

山崎寿也、若山育郎、畑村育次、榎田高士、杉本篤夫、坂口俊二、王財源、川本正純、吉備登、黒岩共一、山本博司、伊藤俊治、木村研一、谷万喜子、戸村多郎、内田靖之、中尾哲也、中吉隆之、鍋田理恵・山口由美子、池藤仁美、北川洋志・寺岡祐助、百合邦子

#### 講義の目的

臨床実習などの実学と並行した位置付けで、東西両医学全般について網羅的に学修する。

#### 到達目標

講義とe-learningを組合せ、専門基礎・専門科目の知識を定着させ、国家試験に繋げる。

#### 授業計画表

#### 授業計画

1. ガイダンス・関係法規 (坂口)
2. 生理学 (内田)
3. 生理学 (内田)
4. 病理学 (伊藤)
5. 病理学 (伊藤)
6. 病理学 (伊藤)
7. 解剖学 (戸村)
8. 解剖学 (戸村)
9. 解剖学 (戸村)
10. 衛生・公衆衛生学 (榎田)
11. 衛生・公衆衛生学 (榎田)
12. 衛生・公衆衛生学 (榎田)
13. リハビリテーション医学 (中尾)
14. 医学総論 (若山)
15. 医学総論 (若山)
16. 医学各論 (畑村)
17. 医学各論 (畑村)
18. 医学各論 (畑村)

- 19.医学各論 (畑村)
- 20.医学各論 (畑村)
- 21.模擬試験Ⅰ前半 (池藤)
- 22.模擬試験Ⅰ後半 (池藤)
- 23.模擬試験Ⅱ前半 (池藤)
- 24.模擬試験Ⅱ後半 (池藤)
- 25.模擬試験Ⅲ前半 (池藤)
- 26.模擬試験Ⅲ後半 (池藤)
- 27.模擬試験Ⅳ前半 (池藤)
- 28.模擬試験Ⅳ後半 (池藤)
- 29.模擬試験Ⅴ前半 (池藤)
- 30.模擬試験Ⅴ後半 (池藤)

尚、別途6月頃前期中間試験、11月頃後期中間試験を実施する。

#### 成績の評価

前期・後期で、中間試験と期末試験を実施し、その平均点を当該最終成績とする。

#### 自己学習

授業計画の進行に合わせるのみではなく、各自が年間計画を立て、国家試験を想定して積極的に学修すること。

#### 履修上の注意

演習につき、授業回数の5分の1を超えて欠席した場合は受験資格を失う。  
遅刻については3回をもって1回の欠席とみなす。  
土曜振替や、担当者により曜日・時限を振り替えて実施する場合がありますので注意すること。  
なお、各回の担当など詳細については、ガイダンス時に別途配布の予定である。

#### テキスト

各科目における教科書 (東洋療法学校協会等 編著)

#### 配付資料

#### 参考文献

適宜紹介する。

#### オフィスアワー

月曜日昼休み (山崎)  
空いている時間はなるべく対応しますので、メール等で事前連絡がある方が確実です。  
その他の教員のオフィスアワー・メールアドレスは、別途一覧表を参考にすること。

#### 研究室

診療・研究棟3F 311研究室 (山崎)

#### 授業用E-mail

[yamazaki@kansai.ac.jp](mailto:yamazaki@kansai.ac.jp)

講義コード	4A391011
講義名	鍼灸治療所実習Ⅰ①
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	月曜日
代表時限	1時限
科目分類・分野名	東洋医学系
科目ナンバリング	A4-2607
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・4年
必修/選択	必修

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 川本 正純	指定なし

#### 担当教員

川本正純、王財源、坂口俊二、山本博司、谷万喜子、木村研一、中吉隆之、山崎寿也、北川洋志、百合邦子、東内あすか

#### 講義の目的

鍼灸治療の適応患者を対象に、鍼灸師の教員による指導下で、これまでの学年で学修してきた内容を駆使して臨床実習を行う。

#### 到達目標

患者との良好な関係を築き、授業計画に挙げた4つの内容を習得する。

#### 授業計画表

#### 授業計画

1. 東洋医学的診察の実習  
望・聞・問・切診（脈診、腹診、舌診、切経）、理学的検査法等を実習する。
2. 鍼灸治療の補助  
医療面接、血圧測定、抜鍼、鍼通電刺激装置のオン・オフと刺激量の調整等、治療の補助を行うとともに、症状に対する処方経穴構成理由、各経穴への刺激方法の違い、それに伴う症状の評価（直後効果・遠隔効果）等を実習する。
3. 診療録の作成  
診療録作成は、毎回教員の指示を受けて『平成29年度 鍼灸治療所実習Ⅰ・Ⅱの手引き』に準じて行うとともに、その内容を各自の実習記録ノートにも転記する。
4. 治療録に基づいた症例のレポート作成  
新患もしくは複数回にわたり同一患者を担当し、その間行われた治療経穴や刺激方法と、患者の症状変化などについて、前期終了時に臨床レポートを作成する。

#### 成績の評価

臨床レポート(40%)と学科試験(60%)（過去5年間の国家試験問題から専門科目を選択）で評価する。

#### 自己学習

実習日に担当した患者の実習記録ノートを整理し、治療のシミュレーションを行う。

## 履修上の注意

医療に携わる者としての自覚を持って本実習に臨むこと。

なお、学生各自が治療の全般に係わる実習記録を記載できる記録ノート必ず携帯すること。

## テキスト

指定のテキストはないが、3年次に配布した「鍼灸診察法Ⅰ・Ⅱ」の資料、『平成<sup>29</sup>年度 鍼灸治療所実習Ⅰ・Ⅱの手引き』を参照すること。

## 参考文献

適宜紹介する。

## 研究室

診療・研究棟3F 302研究室（川本）

## 授業用E-mail

[kawamoto@kamsai.ac.jp](mailto:kawamoto@kamsai.ac.jp)

講義コード	4A391012							
講義名	鍼灸治療所実習Ⅰ②							
(副題)								
開講責任部署								
講義開講時期	前期							
講義区分								
基準単位数	2							
時間	0.00							
代表曜日	水曜日							
代表時限	3時限							
科目分類・分野名	東洋医学系							
科目ナンバリング	A4-2607							
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・4年							
必修/選択	必修							
担当教員								
<table border="1"> <thead> <tr> <th>職種</th> <th>氏名</th> <th>所属</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教員</td> <td>川本 正純</td> <td>指定なし</td> </tr> </tbody> </table>			職種	氏名	所属	教員	川本 正純	指定なし
職種	氏名	所属						
教員	川本 正純	指定なし						
授業計画表								

講義コード	4A391013							
講義名	鍼灸治療所実習Ⅰ③							
(副題)								
開講責任部署								
講義開講時期	前期							
講義区分								
基準単位数	2							
時間	0.00							
代表曜日	火曜日							
代表時限	1時限							
科目分類・分野名	東洋医学系							
科目ナンバリング	A4-2607							
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・4年							
必修/選択	必修							
担当教員								
<table border="1"> <thead> <tr> <th>職種</th> <th>氏名</th> <th>所属</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教員</td> <td>川本 正純</td> <td>指定なし</td> </tr> </tbody> </table>			職種	氏名	所属	教員	川本 正純	指定なし
職種	氏名	所属						
教員	川本 正純	指定なし						
授業計画表								

講義コード	4A391014							
講義名	鍼灸治療所実習Ⅰ④							
(副題)								
開講責任部署								
講義開講時期	前期							
講義区分								
基準単位数	2							
時間	0.00							
代表曜日	火曜日							
代表時限	3時限							
科目分類・分野名	東洋医学系							
科目ナンバリング	A4-2607							
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・4年							
必修/選択	必修							
担当教員								
<table border="1"> <thead> <tr> <th>職種</th> <th>氏名</th> <th>所属</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教員</td> <td>川本 正純</td> <td>指定なし</td> </tr> </tbody> </table>			職種	氏名	所属	教員	川本 正純	指定なし
職種	氏名	所属						
教員	川本 正純	指定なし						
授業計画表								

講義コード	4A392011
講義名	鍼灸治療所実習Ⅱ①
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	火曜日
代表時限	3時限
科目分類・分野名	東洋医学系
科目ナンバリング	A4-2608
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・4年
必修/選択	必修

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 川本 正純	指定なし

#### 担当教員

川本正純、黒岩共一、山本博司、王財源、谷万喜子、中吉隆之、山崎寿也、池藤仁美、北川洋志、百合邦子、東内あすか、畑村育次

#### 講義の目的

鍼灸師の教員による指導下で、外来患者を対象とした鍼灸臨床を体験し、疼痛や不安等を持つ患者心理にどのように対応していくのか、また前期に比してより深い認識のもとで、鍼灸治療を理解するように実習する。

#### 到達目標

教員の治療のシミュレーションとともに、自分自身で治療法が想定できる。

#### 授業計画表

#### 授業計画

1. 東洋医学的診察の実習  
望・聞・問・切診（脈診、腹診、舌診、切経）、理学的検査法等を実習する。
2. 鍼灸治療の補助  
医療面接、血圧測定、抜鍼、鍼通電刺激装置のオン・オフと刺激量の調整等、治療の補助を行うとともに、症状に対する処方経穴構成理由、各経穴への刺激方法の違い、それに伴う症状の推移（直後効果・遠隔効果）それに伴う症状の評価（直後効果・遠隔効果）等を実習する。
3. 刺鍼・施灸の実習  
教員の指示の下、患者に対して指定された経穴に鍼灸治療、低周波鍼通電療法等を実習する。
4. 診療録の作成  
診療録作成は、毎回教員の指示を受けて『平成<sup>29</sup>年度 鍼灸治療所実習Ⅰ・Ⅱの手引き』に準じて行うとともに、その内容を各自の実習記録ノートにも転記する。
5. 附属診療所における見修  
附属診療所における医師の診療行為を見修し、鍼灸治療の適応と禁忌を判断する能力を高めるとともに、医の倫理についても学ぶ。

#### 成績の評価

学科試験（過去5年間の国家試験問題から専門科目を選択）で評価する。

## 自己学習

実習日に担当した患者の実習記録を整理し、教員の治療をシミュレーションするとともに、自分自身が治療することを想定してプランを立ててみる。

## 履修上の注意

常に患者に寄り添った実習を心がけること。

## テキスト

特になし。

## 参考文献

適宜紹介する。

## 研究室

診療・研究棟3F 302研究室（川本）

## 授業用E-mail

[kawamoto@kansai.ac.jp](mailto:kawamoto@kansai.ac.jp)

講義コード	4A392012							
講義名	鍼灸治療所実習Ⅱ②							
(副題)								
開講責任部署								
講義開講時期	後期							
講義区分								
基準単位数	2							
時間	0.00							
代表曜日	火曜日							
代表時限	1時限							
科目分類・分野名	東洋医学系							
科目ナンバリング	A4-2608							
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・4年							
必修/選択	必修							
担当教員								
<table border="1"> <thead> <tr> <th>職種</th> <th>氏名</th> <th>所属</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教員</td> <td>川本 正純</td> <td>指定なし</td> </tr> </tbody> </table>			職種	氏名	所属	教員	川本 正純	指定なし
職種	氏名	所属						
教員	川本 正純	指定なし						
授業計画表								

講義コード	4A392013							
講義名	鍼灸治療所実習Ⅱ③							
(副題)								
開講責任部署								
講義開講時期	後期							
講義区分								
基準単位数	2							
時間	0.00							
代表曜日	木曜日							
代表時限	3時限							
科目分類・分野名	東洋医学系							
科目ナンバリング	A4-2608							
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・4年							
必修/選択	必修							
担当教員								
<table border="1"> <thead> <tr> <th>職種</th> <th>氏名</th> <th>所属</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教員</td> <td>川本 正純</td> <td>指定なし</td> </tr> </tbody> </table>			職種	氏名	所属	教員	川本 正純	指定なし
職種	氏名	所属						
教員	川本 正純	指定なし						
授業計画表								

講義コード	4A392014							
講義名	鍼灸治療所実習Ⅱ④							
(副題)								
開講責任部署								
講義開講時期	後期							
講義区分								
基準単位数	2							
時間	0.00							
代表曜日	月曜日							
代表時限	3時限							
科目分類・分野名	東洋医学系							
科目ナンバリング	A4-2608							
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・4年							
必修/選択	必修							
担当教員								
<table border="1"> <thead> <tr> <th>職種</th> <th>氏名</th> <th>所属</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教員</td> <td>川本 正純</td> <td>指定なし</td> </tr> </tbody> </table>			職種	氏名	所属	教員	川本 正純	指定なし
職種	氏名	所属						
教員	川本 正純	指定なし						
授業計画表								

講義コード	4A441011
講義名	鍼灸臨床実習ⅢA（内科系）
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	火曜日
代表時限	1時限
科目分類・分野名	東洋医学系
科目ナンバリング	A4-2604
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・4年
必修/選択	必修

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 百合 邦子	指定なし

#### 担当教員

百合邦子

#### 講義の目的

本科目は、広範囲の内科疾患（消化器系疾患、呼吸器系疾患、循環器系疾患、内分泌および代謝疾患、泌尿器・生殖器系疾患、アレルギー疾患、感覚器系疾患など）の中で、特に鍼灸の対象とされる症状を中心に講義し、鍼灸施術の実習を行う。

（本科目が必修の鍼灸実習科目での最終科目です。）

#### 到達目標

鍼灸臨床現場で、即対応できる知識と技能を修得することを目標とする。

#### 授業計画表

#### 授業計画

1. 腹痛
2. 悪心・嘔吐
3. 便秘・下痢
4. 食欲不振・肥満
5. 冷え・のぼせ
6. 高血圧・低血圧
7. 咳嗽・喘息
8. 眩暈
9. 耳鳴り・難聴
10. 眼精疲労
11. 鼻閉・鼻汁
12. 排尿障害・ED（勃起不全）・小児疾患
13. 発熱・歯痛
14. 発疹・脱毛症
15. 実技試験

#### 成績の評価

60

30

10

筆記試験 %、実技試験 %、平常点 %で評価する。

### 自己学習

1～3年生で学修したこと全てが関係してきます。

特に、経穴学講義・実習、東洋医学総論、東洋医学各論Ⅰ・Ⅱの内容は十分に復習しておくこと。

### 履修上の注意

指示された内容以外の施術は、絶対にしないこと。

実習中は私語を慎み、教員の指導や実技に集中すること。

### テキスト

1. 『東洋医学臨床論（はりきゅう編）』（医道の日本社）東洋療法学校協会編
2. 『東洋医学概論』（医道の日本社）東洋療法学校協会編
3. 『経絡経穴概論』（医道の日本社）東洋療法学校協会編

### 参考文献

1. 『臨床医学各論』（医歯薬出版）東洋療法学校協会編
2. 『臨床医学総論』（医歯薬出版）東洋療法学校協会編
3. 『図解 鍼灸療法技術ガイドⅠ』（文光堂）矢野忠編集
4. 『図解 鍼灸療法技術ガイドⅡ』（文光堂）矢野忠編集
5. 『針灸学 [臨床編]』（東洋学術出版）天津中医薬大学+学校法人後藤学園編 兵藤明監訳

### オフィスアワー

未定。

### 研究室

診療・研究棟3階教員室

### 授業用E-mail

[yuri@kansai.ac.jp](mailto:yuri@kansai.ac.jp)

講義コード	4A441012
講義名	鍼灸臨床実習ⅢB（内科系）
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	月曜日
代表時限	1時限
科目分類・分野名	東洋医学系
科目ナンバリング	A4-2604
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・4年
必修/選択	必修

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 山崎 寿也	指定なし

#### 担当教員

山崎寿也

#### 講義の目的

本科目は、広範囲の内科疾患（消化器系疾患、呼吸器系疾患、循環器系疾患、内分泌および代謝疾患、泌尿器・生殖器系疾患、アレルギー疾患、感覚器系疾患など）の中で、特に鍼灸の対象とされる症状を中心に講義し、鍼灸施術の実習を行う。

（本科目が必修の鍼灸実習科目での最終科目です。）

#### 到達目標

鍼灸臨床現場で、即対応できる知識と技能を修得することを目標とする。

#### 授業計画表

#### 授業計画

1. 腹痛
2. 悪心・嘔吐
3. 便秘・下痢
4. 食欲不振・肥満
5. 冷え・のぼせ
6. 高血圧・低血圧
7. 咳嗽・喘息
8. 眩暈
9. 耳鳴り・難聴
10. 眼精疲労
11. 鼻閉・鼻汁
12. 排尿障害・ED（勃起不全）・小児疾患
13. 発熱・歯痛
14. 発疹・脱毛症
15. 実技試験

#### 成績の評価

60

30

10

筆記試験 %、実技試験 %、平常点 %で評価する。

### 自己学習

1～3年生で学修したこと全てが関係してきます。

特に、経穴学講義・実習、東洋医学総論、東洋医学各論Ⅰ・Ⅱの内容は十分に復習しておくこと。

### 履修上の注意

指示された内容以外の施術は、絶対にしないこと。

実習中は私語を慎み、教員の指導や実技に集中すること。

### テキスト

1. 『東洋医学臨床論（はりきゅう編）』（医道の日本社）東洋療法学校協会編
2. 『東洋医学概論』（医道の日本社）東洋療法学校協会編
3. 『経絡経穴概論』（医道の日本社）東洋療法学校協会編

### 参考文献

1. 『臨床医学各論』（医歯薬出版）東洋療法学校協会編
2. 『臨床医学総論』（医歯薬出版）東洋療法学校協会編
3. 『図解 鍼灸療法技術ガイドⅠ』（文光堂）矢野忠編集
4. 『図解 鍼灸療法技術ガイドⅡ』（文光堂）矢野忠編集
5. 『針灸学〔臨床編〕』（東洋学術出版）天津中医薬大学+学校法人後藤学園編 兵藤明監訳

### オフィスアワー

月曜日昼休み

空いている時間はなるべく対応しますので、メール等で事前連絡がある方が確実です。

### 研究室

診療・研究棟3F 311研究室

### 授業用E-mail

[yamazaki@kansai.ac.jp](mailto:yamazaki@kansai.ac.jp)

講義コード	4A442011
講義名	伝統鍼灸学Ⅱ（経絡治療）
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	木曜日
代表時限	2時限
科目分類・分野名	東洋医学系
科目ナンバリング	A4-2403
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・4年
必修/選択	選択

#### 担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 古野 忠光	指定なし

#### 担当教員

古野 忠光

#### 講義の目的

「病は精気の虚から」と言われるように、病気とは十二経絡を巡る気血（生命を維持する基本物質）の調和が崩れた状態で、生命力（生き抜く力・自然治癒力・回復力）の衰えた状態をいう。また、健康とは五臓六腑の気血が順調に過不足なく流れ調和が取れていて生命力旺盛な状態をいう。つまり生命維持機構は気血の巡りに依存するものである。

また、あらゆる疾患（運動器・内科・婦人科・小児科・アレルギー等々の疾患・スポーツ障害等々）は、すべて十二経絡を巡る気血の異常（虚・実）として経絡・経穴にそして寸口、関上、尺中の脈所に現れるのである。この異常を脈診によって捉え、その虚・実に対して補瀉を施すことによって病は治癒へと導かれるのである。

本講義は、伝統医学としての古典を再検討した経絡理論を実践し経絡治療の優秀性を発揮すると共に、奇経治療・子午治療などを加え臨床に即した実技指導を行う。鍼灸師としての実力を身に付けて欲しい。

#### 到達目標

経絡治療の真髄は、十二経絡を巡る気血の過不足を調整することによって、自然治癒力を高め生命力の強化となり必然的に治癒という結果をもたらすことにある。

この経絡治療を実践することによって、脈診を身に付ける！ 治療家としての実力を育成する！

このことによって患者からの信頼を受け社会に役立つ鍼灸人としての治療家を目指す。

#### 授業計画表

#### 授業計画

1. 経絡治療とは・脈診の概要（講義）
2. 補法・瀉法の基本刺鍼（補瀉論）  
経絡治療の実際（腰痛・膝関節疾患）
3. 臓象論・五臓の生理（講義）
4. 実践経絡治療・『難経』六十九難の応用  
実習（花粉症と経絡治療）

5. 病証論・十二経の病症（講義）
6. 脉診・腹診 実習（捻挫・打撲）
7. 病因と病証（講義）
8. 実践経絡治療 実習（アトピー性皮膚炎と経絡治療）
9. 五蔵の色体表（講義）
10. 実践経絡治療 実習（五十肩と経絡治療）
11. 奇経治療・子午治療（講義）
12. 実践奇経治療・実習（スポーツ障害と経絡治療）
13. スポーツ障害と経絡治療 実習
14. 実践奇経治療・子午治療 実習
15. 実践経絡治療まとめ 実習

#### 成績の評価

定期試験80%・授業態度10%、平常点10%等総合的に評価する。

#### 自己学習

事前に配布するプリント等にて、必ず予習の上出席すること。

その他、治療法則である『難経』六十九難、六十八難。十二経絡の五行穴等を予習しておくこと。

#### 履修上の注意

欠席しない、眠らない、迷惑かけない。無断で途中退席は厳禁。

#### テキスト

「わかりやすい経絡治療」（東洋はり医学会事務局）福島弘道著

#### 参考文献

「よくわかる奇経治療」（たにくち書店）宮脇和登著

講義コード	4A443011
講義名	スポーツ鍼灸特論
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	水曜日
代表時限	2時限
科目分類・分野名	東洋医学系
科目ナンバリング	A4-4106
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・4年
必修/選択	選択

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 内田 靖之	指定なし

#### 担当教員

坂口俊二

#### 講義の目的

本科目では、鍼灸師としてスポーツ競技者の体調や障害、外傷などにどのように関わっていけるかについて学修する。

#### 到達目標

スポーツ競技者にかかわるメディカルスタッフとして、鍼灸師のidentityの確立を目指す。

#### 授業計画表

#### 授業計画

1. スポーツと東洋医学「スポーツ鍼灸とは？」
2. アスレティックトレーナーとメディカルスタッフ
3. スポーツ競技者の体調把握と不調への対処法1 (M-test)
4. スポーツ競技者の体調把握と不調への対処法2 (奇経治療)
5. スポーツ競技者の体調把握と不調への対処法3 (低周波鍼通電療法)
6. 運動器系疾患・症状に対する経筋治療の活用
7. 運動器系疾患・症状に対する円皮鍼の活用と有効性
8. スポーツ鍼灸[仮題] (外部講師)
9. スポーツ分野における鍼治療のエビデンス
10. スポーツ障害に対するアスレティックトレーニングと鍼灸治療1 (腰部)
11. スポーツ障害に対するアスレティックトレーニングと鍼灸治療2 (肩関節)
12. スポーツ障害に対するアスレティックトレーニングと鍼灸治療3 (肘関節)
13. スポーツ障害に対するアスレティックトレーニングと鍼灸治療4 (足部)
14. スポーツ外傷に対する鍼灸治療1 (足関節捻挫)
15. スポーツ外傷に対する鍼灸治療2 (筋損傷 [打撲・肉離れ])

#### 成績の評価

期末試験80%、平常点 (レポート含む) 20%

#### 自己学習

講義内容を復習するとともに関連科目の学修内容を統合し、鍼灸師としてスポーツ競技者に携わるイメージを構築していくこと。

#### 履修上の注意

本科目の学修を通じて、「スポーツ鍼灸」という新たな領域の中身を理解することが重要である。

#### テキスト

特になし。

#### 参考文献

「M-Test—経絡と動きでつかむ症候へのアプローチ（株）医学書院）向野義人、松本美由季、山下なぎさ 著

「誰でもできる経筋治療」（株）医道の日本社）篠原昭二 著

「鍼通電療法テクニック—運動器系疾患へのアプローチ—」

（株）医道の日本社）大島宜雄 監修、山口真二郎 著

「スポーツリハビリテーション—最新の理論と実践—」（西村書店）コルト・スナイダー—マクレー—編、守屋秀繁 監訳

#### 研究室

診療・研究棟3階311研究室（内田）

診療・研究棟4階412研究室（坂口）

講義コード	4A444011
講義名	レディース鍼灸
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	金曜日
代表時限	4時限
科目分類・分野名	東洋医学系
科目ナンバリング	A4-2406
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・4年
必修/選択	選択

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 百合 邦子	指定なし

#### 担当教員

百合邦子・鍋田理恵・坂口俊二

#### 講義の目的

月経を中心とするライフサイクルにかかわる様々なトラブルや疾患・症状に対し、鍼灸学が果たせる役割について学ぶ。

#### 到達目標

各項目を概括的に捉え、鍼灸治療と結びつけていくことができるようになる。

#### 授業計画表

#### 授業計画

1. 女性のライフサイクルと東洋医学
2. 女性とメンタルヘルス
3. 月経周期異常
4. 月経前症候群
5. 月経困難症
6. 冷え性Ⅰ
7. 冷え性Ⅱ
8. 不妊症
9. 妊娠期のマイナートラブルⅠ（つわり）
10. 妊娠期のマイナートラブルⅡ（骨盤位）
11. 更年期障害Ⅰ（外部講師）
12. 更年期障害Ⅱ（外部講師）
13. まとめⅠ（外部講師）
14. まとめⅡ
15. まとめⅢ

#### 成績の評価

筆記試験 80%、平常点20%

#### 自己学習

各項目についての配布資料を整理し、自分なりの資料集を作ること。  
興味を持った内容について、成書や検索エンジンなどで深く掘り下げること。

#### 履修上の注意

履修の目的をしっかり持って学修すること。  
講義を中心に進めるが、適宜実習を含むこともある。  
第11,12,13週は外部講師を招聘予定である。  
第14,15週のまとめは実技を中心に展開する予定である。

#### テキスト

特になし。

#### 参考文献

1. 『レディース鍼灸ーライフサイクルにおける女性のヘルスケア』 (医歯薬出版) 矢野忠 編著
2. 『図解 鍼灸療法技術ガイドⅡ』 (文光堂) 矢野忠 編集
3. 『冷え外来』 (医歯薬出版) 川島朗 編著

#### オフィスアワー

未定。

#### 研究室

診療・研究棟3階教員室 (百合)  
診療・研究棟4階416研究室 (鍋田)  
診療・研究棟4階412研究室 (坂口)

#### 授業用E-mail

[yuri@kansai.ac.jp](mailto:yuri@kansai.ac.jp)

講義コード	4A445011
講義名	美容鍼灸
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	木曜日
代表時限	3時限
科目分類・分野名	東洋医学系
科目ナンバリング	A4-2407
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・4年
必修/選択	選択

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 王財源	指定なし

#### 担当教員

王財源

#### 講義の目的

『黄帝内経』には容貌、形体、精神に対する「美」への考え方があり、そこには中国伝統医学に基づいた美容学が存在する。

『黄帝内経』によれば「血気が充足すれば、眉毛は麗しく長く、眉の中に毫毛が生える。血が多くて気が少なければ、眉毛は枯れて憔悴し、顔に細やかな皺が多く現れる。血が少なく気が多ければ、顔面部の筋肉は豊満で、気血が調和していれば、顔面がきれいになる」と、気血が蔵府の機能を介して、身体上における経絡、経穴に及ぼす影響について述べている。また、体質や心理的要因の改善には、美しさを保つ上での秘訣があるという。そこで、本講義は中国伝統医学の考え方を基本姿勢とする鍼灸美容学の理論と実践に取り組み、実際の臨床に還元することを目的とする。

#### 到達目標

講義は中医学を基礎とした鍼灸美容学を学び、実践へと結びたい。また、実技ではそれらの刺鍼効果を実際に体験し、一般的な毫鍼法を用いることはもちろんのこと、本学ならではの特色として、古代九鍼中の員針、員利鍼、鍤鍼、鑱鍼、鉞鍼、鋒鍼の6種類の鍼がもつ特殊な形状を利用した、「聚」「散」「合」「離」の4タイプの手技による気血の誘導で、「内剛」(内の逞しさ)より「外柔」(そとはしなやかに)を促すための方法を習得し、伝統医学を用いた美容鍼灸指導者の育成を目標とする。

#### 授業計画表

#### 授業計画

1. 導入教育 動画でまなぶ・・・「美容鍼灸の実践」
2. 起源と発展、古代の宮廷内部の女性の「美」意識
3. 審美にみる伝統医学の活用法
4. 鍼灸美容と心身の相関関係を明らかにする
5. 『素問』にみえる美容に影響を与える因子と仕組み
6. 『老子』哲学にみる養生思想
7. 六淫と皮膚美容の関係性について

- 8.『靈枢』に載る気血の盛衰と容貌美の関係について
- 9.七情と表情筋との関係性について
- 10.『靈枢』経脈編に説かれる容貌美
- 11.十二皮部を活用した美容法
- 12.「美」にも根付く「気」の思想
- 13.シワ鍼、梅花鍼、審美九鍼(刮痧鍼法)
- 14.灸法:湧泉燻蒸法 大椎燻蒸法 脈気温陽法
- 15.養神と養形に対する処方穴

#### 成績の評価

試験80%・レポート20%

#### 自己学習

短期間での学習となるため、「臓腑学」などで基礎理論を学習し、中国伝統医学に対する予備知識を高めておくことと聴講の助けとなります。

#### 履修上の注意

実習は講義の進行状況を考慮して行いたい。鍼は各自で予備に購入しておくこと。また、レポート評価は出題テーマと一致したもので、新しい発見があり、さらにそれらを公的な出版物を介して検証できたものが望ましい。ネットや書籍よりのコピーが必要な場合は引用先を明確にし、出題テーマとの整合性を鑑みておくこと。

#### テキスト

王財源著『中医学に基づく実践美容鍼灸』東京 医歯薬出版(株)

#### 参考文献

王財源、中吉隆之、木村研一ほか著『鍼灸美容学』東京 静風社

日本美容皮膚科学会監修 『美容皮膚科学』東京 南山堂

王財源著『入門・目で臨床中医診断学』東京 医歯薬出版(株)

#### オフィスアワー

木曜日午後。

面談時には事前にメールで連絡してください。

#### 研究室

診療・研究棟4F 413号室

#### 授業用E-mail

[cai@kansai.ac.jp](mailto:cai@kansai.ac.jp)

講義コード	4A446011
講義名	現代鍼灸学
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	水曜日
代表時限	1時限
科目分類・分野名	東洋医学系
科目ナンバリング	A4-4107
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・4年
必修/選択	選択

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 木村 研一	指定なし

#### 担当教員

木村研一・坂口俊二

#### 講義の目的

鍼灸治療には、現代医学的と東洋医学的な観点から治療を行う場合がある。現代鍼灸学では主要な疾患・症状に対し、現代医学的な病態把握に基づく鍼灸治療の組み立てを学修する。

#### 到達目標

鍼灸治療で対象となりやすい疾患・症状について現代医学的な病態把握と基本的な鍼灸治療について修得する。

#### 授業計画表

#### 授業計画

1. 現代鍼灸学とEBM
2. 血圧異常に対する鍼灸治療
3. 頭痛に対する鍼灸治療
4. 外傷性頸部症候群に対する鍼灸治療
5. 頸腕症候群に対する鍼灸治療
6. 腰痛症に対する鍼灸治療1
7. 腰痛症に対する鍼灸治療2
8. 末梢循環障害に対する鍼灸治療1
9. 末梢循環障害に対する鍼灸治療2
10. パーキンソン病に対する鍼灸治療
11. 関節リウマチに対する鍼灸治療
12. 肩関節周囲炎に対する鍼灸治療
13. 変形性膝関節症に対する鍼灸治療
14. 維持透析の合併症に対する鍼灸治療
15. 慢性閉塞性肺疾患に対する鍼灸治療  
症例報告からみる鍼灸治療の適応症

#### 成績の評価

レポートで評価する。

### 自己学習

毎回の講義内容を整理・復習し、その知識を「鍼灸治療所実習」などの実学に結び付けること。

### 履修上の注意

これまでの鍼灸臨床実習系科目の内容を包含しつつ、各疾患・症状の鑑別や適応に重点を置いた講義を展開していく。講義科目だが、実習を行う場合もある。

### テキスト

授業中に配布する。

### 参考文献

「図解鍼灸療法技術ガイドⅡ」（文光堂）矢野 忠、他 編  
「鍼灸臨床最新科学」（医歯薬出版）矢野 忠、川喜田 健司  
編

### オフィスアワー

火曜日（12:00～13:00）

### 研究室

診療・研究棟4階414研究室(木村)・  
412教室（坂口）

### 授業用E-mail

[k.kimura@kansai.ac.jp](mailto:k.kimura@kansai.ac.jp)

講義コード	4A447011
講義名	トリガーポイント鍼療法Ⅰ
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	木曜日
代表時限	1時限
科目分類・分野名	東洋医学系
科目ナンバリング	A4-2610
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・4年
必修/選択	選択

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 黒岩 共一	指定なし

#### 講義の目的

頸・肩の凝り感・痛み（寝違い、頸椎症、頸椎ヘルニア...）と目眩・めまい感に対するトリガーポイント療法について解説し、実習する。

死亡事故を引き起こしかねない体部位への刺鍼なので、リスク認識は勿論、回避するための医学的知識・技術の基本を身に付ける。

#### 到達目標

頸肩部の痛み、めまいを生じるトリガーポイントに、リスクを避けて、鍼を中てられる様になる。どうすればリスクを減らして刺激(刺鍼・手技)できるのか理解し、実践できる様になる。

#### 授業計画表

#### 授業計画

1. 頸部痛、頸肩こり(感)の責任トリガーポイント(講義)
2. 肩こりのTP刺鍼：僧帽筋、肩甲挙筋
3. 肩こりのTP刺鍼：棘上筋、後斜角筋
4. 肩こりのTP治療：前・中斜角筋、腸肋筋
5. 頸こり、痛みのTP刺鍼：頭半棘筋、最長筋
6. 頸こり、痛みのTP刺鍼：頭板状筋、肩甲挙筋
7. 頸こり、痛みのTP刺鍼：頸半棘筋、頸椎骨膜
8. 頸・肩こりのTP治療1
9. 頸・肩こりのTP治療2
10. 頸・肩こりのTP治療3
11. めまい、目眩感のTP(講義)
12. めまい、目眩感のTP刺鍼：頭半棘筋、最長筋、頸椎骨膜
13. めまい、目眩感のTP刺鍼：胸鎖乳突筋、側頭筋
14. 実技テスト(クラス前半)
15. 実技テスト(クラス後半)

#### 成績の評価

試験90%、平常点(実習課題への取り組み態度など)10%

#### 自己学習

- ①取り上げる筋の解剖(起始・停止と走行、形状、作用)を前日迄に予習する。
- ②めまいの病態生理(めまいに關与する3種の感覚とそれら3感覚を統合する中枢について、講義迄に予習する。

#### 履修上の注意

頸部刺鍼事故の最悪は硬膜下出血による死亡である。説明を聞き漏らさず、指示を守り、教えられた正しい手順通りに刺鍼すること。

#### テキスト

「プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論/運動器系」(医学書院)  
配布プリント

#### 参考文献

「刺鍼事故 処置と予防」(三和書籍) 劉玉書  
「改訂第2版 骨格筋の形と触察法」(大峰閣) 河上敬介他

#### 授業用E-mail

[kuroiwa@kansai.ac.jp](mailto:kuroiwa@kansai.ac.jp)

講義コード	4A448011
講義名	トリガーポイント鍼療法II
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	木曜日
代表時限	2時限
科目分類・分野名	東洋医学系
科目ナンバリング	A4-2611
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・4年
必修/選択	選択

#### 担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 田坂 和子	指定なし

#### 担当教員

田坂 和子

#### 講義の目的

運動器の疼痛治療におけるトリガーポイント療法の役割と治療法について学び、実習する。本講義では腰痛の治療に特化し、それに関わる筋の触察、マッサージ、鍼治療の方法を学ぶ。

#### 到達目標

運動器由来の腰痛に対するトリガーポイント療法について理解を深め、鍼を中てられるようになる。

#### 授業計画表

#### 授業計画

- 1.トリガーポイントと運動器由来の腰痛について（講義）
- 2.腰痛の筋の体表投影図描写実習
- 3.腰方形筋、腸肋筋のマッサージ
- 4.多裂筋のマッサージ
- 5.ツールを用いてのマッサージ
- 6.多裂筋、大腰筋の鍼治療
- 7.腸肋筋、腰方形筋の鍼治療
- 8.臀部の体表投影図描写実習
- 9.大殿筋、中殿筋のマッサージ
- 10.大腰筋のマッサージ
- 11.ツールを用いてのマッサージ
- 12.臀部の鍼治療
- 13.臀部の鍼治療
- 14.実技試験
- 15.実技試験

#### 成績の評価

試験80% 平常点20%

## 自己学習

実習範囲の解剖学、運動学の予習および復習が必要

## 履修上の注意

1. 実習しやすい服装をすること。バッグ、携帯電話、飲食物の持ち込みは禁止する。
2. 実習では注意をしなければ危険な箇所もあるので、実習中の指示は必ず聞くこと。

## テキスト

## 配布プリント

## 参考文献

- 「改訂第2版 骨格筋の形と触察法」(大峰閣) 河上敬介他  
「プロメテウス 解剖学アトラス」(医学書院) 坂井建雄 松村譲児

講義コード	4A449011
講義名	スポーツ鍼灸治療Ⅱ
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	水曜日
代表時限	2時限
科目分類・分野名	東洋医学系
科目ナンバリング	A4-2613
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・4年
必修/選択	選択

#### 担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 松浦 英世	指定なし

#### 担当教員

松浦英世

#### 講義の目的

スポーツ鍼灸治療Ⅰではスポーツ選手に多いスポーツ傷害の治療法を部位に分けて行い、ここではスポーツ選手にも遭遇する内科疾患および頭部や顔面部さらに緊張による頸肩の症状に合わせて一つひとつ部位別に鍼灸治療や手技療法を講義していきます。

また、スポーツ傷害に対して現場で現在活躍されている経験の豊富な先生方にも特別に講義していただく予定です。

#### 到達目標

スポーツ選手にも多い不定愁訴となる内科疾患の治療が行える。このことは、一般成人にとっても同様の治療法が行えるため、その鍼灸治療ができることを到達目標にします。

#### 授業計画表

#### 授業計画

1. 試合前に多い頭痛症状
2. 胸郭出口症候群・肩こり症
3. 有酸素運動に対する呼吸器疾患および肋骨痛
4. 特別講義
5. スポーツ選手の胃症状
6. 肝胆膵疾患
7. 便秘と下痢症状
8. スポーツ選手にもある月経異常および泌尿器疾患
9. 特別講義
10. スポーツ選手に多い眼精疲労
11. 耳鼻疾患
12. 顔面部疾患と歯痛
13. 遠征時に多い不眠症
14. 特別講義
15. スポーツ選手にも太極療法

## 成績の評価

筆記試験80% 平常点20%

## 自己学習

体表解剖はもちろん、内臓学、感覚器などの解剖学。経絡、経穴はもちろんのこと、特に募兪穴を中心に予習・復習しておいて下さい。

## 履修上の注意

実習時間は限られていますので、訓練する技術は、その時間内に習得するように心がけて下さい。指示以外の施術は絶対にしてはいけません。またお互いが被術者になりますので、実習部位への鍼灸治療が可能な服装を心掛けて下さい。

## テキスト

「スポーツマッサージ」 (KATA実技指導員著)  
資料配布

## 参考文献

経外穴 (関西運動器研究会著)

講義コード	4A450011
講義名	臓腑経脈治療Ⅰ
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	金曜日
代表時限	4時限
科目分類・分野名	東洋医学系
科目ナンバリング	A4-2614
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・4年
必修/選択	選択

#### 担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 辻岡 広行	指定なし

#### 担当教員

辻岡 広行

#### 講義の目的

歌賦を題材にし、鍼灸臨床の場面に対応するために、分析→弁証→選穴→施術を行う。  
尚、特に表証について行う。

#### 到達目標

臨床現場で遭遇した際、滞りなく施術が行える様にする。

#### 授業計画表

#### 授業計画

1. 頭風
2. 頭痛
3. 偏頭痛
4. 頭部疾患の実技
5. 三叉神経痛
6. 顔面神経麻痺
7. 顔面部疾患の実技
8. 脇肋疼痛
9. 脇肋部疾患の実技
10. 腰痛・坐骨神経痛①
11. 腰痛・坐骨神経痛②
12. 腰部疾患の実技
13. 脚腿諸病
14. 脚腿諸病の実技
15. まとめ

#### 成績の評価

筆記試験80%・実技点10%・平常点10%

#### 自己学習

東洋医学概論や臨床についての疑問点を書き出して、自分で調べた後、質問を行う。

#### 履修上の注意

授業中の携帯電話の使用は禁止します。

#### テキスト

必要に応じてプリントを配布する。

#### 参考文献

『東洋医学概論』（医道の日本社）東洋療法学校協会編

『経絡経穴概論』（医道の日本社）東洋療法学校協会編

講義コード	4A451011
講義名	臓腑経脈治療Ⅱ
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	木曜日
代表時限	1時限
科目分類・分野名	東洋医学系
科目ナンバリング	A4-2615
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・4年
必修/選択	選択

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 川本 正純	指定なし

#### 担当教員

川本正純

#### 講義の目的

蔵象並びに経絡・経別に基づいた臨床応用例の学習を目的とした実習講義

#### 到達目標

各疾患に対しての配穴の弁証ができ、施術方法を導き出せる臨床応用力を培うこと

#### 授業計画表

#### 授業計画

1. 正経の経間関係と奇経の運用方法
2. 経別と交会穴について
3. 実習
4. 咳嗽・哮喘と鼻疾患の配穴弁証①
5. 咳嗽・哮喘と鼻疾患の配穴弁証②
6. 実習
7. 翻胃・九種心痛の配穴弁証①
8. 翻胃・九種心痛の配穴弁証②
9. 実習
10. 泄瀉・消渴の配穴弁証①
11. 泄瀉・消渴の配穴弁証②
12. 実習
13. 崩漏・帯下の配穴弁証①
14. 実習
15. まとめ

#### 成績の評価

試験80% ・平常点20%

#### 自己学習

東洋医学概論、経穴学を復習し、靈枢の各論を通読しておく事

履修上の注意

各週に受けた講義の疑問点を明確に認識し、次週授業時に質問できるようにする

テキスト

随時プリント配布する

参考文献

漢方用語大辞典（創医学会学術部主編）出版社：燎原

研究室

診療・研究棟3F 302研究室

授業用E-mail

[kawamoto@kansai.ac.jp](mailto:kawamoto@kansai.ac.jp)

講義コード	4A452011
講義名	中国手技療法
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	水曜日
代表時限	1 時限
科目分類・分野名	東洋医学系
科目ナンバリング	A4-2616
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・4年
必修/選択	選択

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 王 財源	指定なし

#### 担当教員

王財源

#### 講義の目的

中国伝統医療文化を基軸に発展を遂げた中国伝統医学には、歴代医家らの珠玉の経験による医学知識が集積されています。

そのなかでも鍼灸学には、鍼灸治療を用いた患者の疾病治療と予防があり、症状の数だけ異なった治療技術が存在しています。本講義は、伝統医術に基づいた中国鍼灸の手技学を補い、中国伝統医学(中医学)に置ける、中医鍼灸治療の実践方法について学ぶことを目的とします。

#### 到達目標

- ①中国鍼・棒灸・吸角を用いた施術方法を習得すること。
- ②中医弁証法で組み立てた疾病に対する、中国鍼灸術の応用能力を育てること。

#### 授業計画表

#### 授業計画

1. 中医学における「気」の身体観と臓腑学
2. 中医古典文献より読み解く古代の鍼手技
3. 中国鍼法について
4. 中医診断による中国鍼の使用方法
5. 中医飛鍼法と梅花鍼
6. 中国鍼の手技と得気の誘発方法
7. 中国古代の刺鍼手技「焼山火」「透天涼」
8. 中医長針法
9. 中医棒灸術の実践方法
10. 中医吸角法(火罐)について
11. 中医吸角術の実践方法・火罐置針法、走罐法など
12. 中医顔面鍼治法(鼻鍼・面鍼)
13. 中医八卦頭針法について
14. 中医八卦頭針法の実践方法
15. 中医弁証学の正しい使用方法

## 成績の評価

実技試験100%にて評価

## 自己学習

- ①手技学が本講義の目的のため、自主的なトレーニングを積んでおくと、手技学理解の補助となります。
- ②臓腑学説などで身体の中医学を基準に、中国伝統医学に対する予備知識を高め、実践に即した中医診断による中国鍼治療を習得する。

## 履修上の注意

- ①私語は慎み、質問は講義終了後に行う。携帯電話と飲食禁止。
- ②講義の進行状況に合わせて授業内容が前後することがある。

## テキスト

適宜、資料を配付して紹介する。

## 参考文献

- 『針灸学』〈手技編〉東洋学術出版、鄭魁山著  
『特殊鍼灸テキスト』医歯薬出版、北出利勝、篠原昭二編  
『わかりやすい臨床中医実践弁証トレーニング』医歯薬出版、王財源  
『わかりやすい臨床中医診断学』第二版、医歯薬出版、王財源  
『わかりやすい臨床中医臓腑学』第三版、医歯薬出版、王財源

## オフィスアワー

木曜日午後。

面談時には事前にメールで連絡してください。

## 研究室

診療・研究棟4階413研究室

## 授業用E-mail

[cai@kansai.ac.jp](mailto:cai@kansai.ac.jp)

講義コード	4A453011
講義名	アスレティックトレーナー総合演習
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	月曜日
代表時限	1時限
科目分類・分野名	総合領域
科目ナンバリング	A4-2711
対象学科・学年	はり灸・スポーツトレーナー学科・4年
必修/選択	選択

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 内田 靖之	指定なし

#### 担当教員

吉田隆紀  
山口由美子  
中尾哲也  
寺岡祐助

#### 講義の目的

アスレティックトレーナーや鍼灸師は身体に関する最新の知識を持っていなくてはならない。本演習では最新の知識をどのようにして得るか、また得た知識をどのように現場へ実践していくか、基盤を作ることで知識を社会に応用できるアスレティックトレーナーや鍼灸師になることを目的とする。またその課程で（財）日本体育協会公認アスレティックトレーナー試験の合格を目指す。これらの内容をゼミ形式で行う。

#### 到達目標

様々な医学的文献を検索し、読み理解することが出来るようになる。また、アスレティックトレーナー試験を合格することを目的とする。

#### 授業計画表

#### 授業計画

1. AT試験対策
2. AT試験対策
3. AT試験対策
4. AT試験対策
5. 神経筋からみる運動プログラミング
6. 下部体幹筋群収縮様式と姿勢、運動制御
7. 歩行にもとめるもの
8. 姿勢とアライメントの評価と傷害予防
9. 重心や重心位置を利用して、SSCや加速的運動連鎖を導く
10. オーバーヘッド競技者に対するコンディショニングの実際
11. 予防プログラムの考え方
12. 膝の傷害に対するリハビリテーションの実際－半月板縫合術を中心に

13. 足部スポーツ障害の研究紹介

14. 筋収縮と疲労のメカニズム

15. 疲労回復、コンディショニングについて—文献紹介と現場での活用

※講義タイトルは順番が前後する可能性があります。

#### 成績の評価

レポート、出席状況など総合的に評価する。

#### 自己学習

アスレティックトレーナー専門科目テキストを読んでおくこと。

紹介された論文は必ず読むこと。

#### 履修上の注意

(財)日本体育協会公認アスレティックトレーナー試験合格を目指す人、論文検索などに興味のある人は履修して下さい。

#### テキスト

日本体育協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト①～⑨

#### 参考文献

適宜指示する。

#### 研究室

診療・研究棟3階311研究室 (内田)

診療・研究棟3階305研究室 (吉田)

診療・研究棟4階415研究室 (山口)

診療・研究棟4階412研究室 (中尾)

診療・研究棟3階教員室 (寺岡)